

VOICE

DRIVE

～地域の夢と未来に向かって前進～



INDEX

2009年度活動報告	1P～2P
2010年度理事長所信、各委員長基本方針	3P～5P
2010年度会員紹介、組織図	6P～8P

2010
January

IIZUKA
Junior Chamber NEWS vol.55

2009年度活動報告

凡事徹底

LEARNING BY DOING

実践によって気づき学び得られるものがある

山笠委員会



2月より当委員会では山笠振興会へ出向し、月に一度の事務局会議また振興会理事会・総会の運営そして、『わっしょい祭』『こども山笠教室』『お汐い取り』『追い山』と一年間山笠一色で突っ走って参りました。

今思い返すと「私たちは5つ目の流れだ」を合い言葉とし、本当に委員会メンバー一人ひとりが真剣に熱く『市民祭飯塚山笠』の発展の為に意見を交わしていたのを思い出します。

山笠委員会では、他の委員会みたいな大きな事業は行っていません。しかし、11月に開催いたしました『飯塚山笠検証報告会』では、今まで振興会の中で触れづらかった部分をメンバー一丸となって提言いたしました。これは、とても素晴らしい第一歩ではないかと感じております。今すぐには形は変わりませんが、ドアをノックした位の事です。この行動に対してどの様な変化が現われるかも解りませんが、確実に青年会議所として一歩前進した事業だったのではないかと感じております。

委員長 小林 雄二

広報渉外委員会



今年の灯明事業に関して、委員会の目標を過去最大(延べ4000人以上)の来場客を集め、多くの方に灯明と(社)飯塚青年会議所を知って頂く事に決めました。私たちは広報渉外委員会として、1年間、広報について委員会メンバー

で考え、様々な広報を試した事や、外部団体と深く関わり、他の祭り(I LOVE遠賀川祭り)とコラボした事で、目標を大きく越え、延べ5000人の方に灯明を見て頂き、(社)飯塚青年会議所を知って頂く事が出来ました。1年間をかけて行った灯明事業は準会員・新入会員メンバーにとって事業の達成感、仲間との思いで、支えて頂いた多くのメンバーへの感謝等、多くの気づきを与えて頂きました。

また、各委員会にコミットメントし、多くの事業に参加する事が出来ました。委員会メンバー全員がそれぞれに担当の委員会を持つ事で、必ず2つ以上の委員会に属し活動する事が出来ました。準会員・新入会員に初年度から多くの委員会に参加する事は、いろんな委員会のやり方の勉強や各委員会のメンバーと同じ時間を共有し友情を育む事が出来たと思います。この事はJC活動をよく理解してもらい、今後のJC活動に生かして頂けると確信します。

委員長 西 竜太郎

組織力開発実践特別室



青年会議所運動の目的の一つである、自己修練や会員相互の発展を目指した研修などが公益性という名のもとに埋もれつつある危機感から設置された当室ですが、本年度は一つの事業・一つの検証を

行いました。

まず、青年会議所という組織を支えているのはひとり一人のメンバーであることから、組織力を上げるために個々の人間力を上げる人間力開発研修を行いました。その中では、個人を知り他人を知り、そして、全員で協力して物事を達成することの必要性や難しさを知ることができ、人として生きていくために何が必要なのかを豊前青年会議所OBの中村先輩からご指導いただきました。本当に貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。

また、55年間事業内容検証と題打って行った検証事業では、今後のJC運動を行う上でまず自分たちの所属する組織が過去に何をやってきたのかを知ることが先決だと考え、諸先輩方が行ってこられた全ての事業を調べました。そして、本年度の委員会ジャンルごとに振分け、ひとつ一つの事業を要約しファイルとして作成しました。このファイルは、今後のJC運動を行う際に必ず必要になると確信しております。

室長 山室 透

総務例会委員会



今年度、総務例会委員会は委員会希望調書や会員手帳作成など飯塚青年会議所の雑務及び月1回メンバー同士の交流を図る「みんなの顔が見たい」例会を11回・メンバー全員の意見を総合する総会を5回・本年度入

会された28人の準会員オリエンテーションを年間通して行いました。

毎月の例会アワーを考えることは思っていたより大変で、メンバーと多くの委員会を開催しました。中でも、起承転結の4部作で行った「不景気対策例会シリーズ」はメンバーにかなりの負担をかけたと思います。しかし、私が目指す、日頃会う事のできない異業種のメンバーとの情報交換や意見交換の貴重な場として運営できました。

最後の例会、～命の大切さを地域みんなで考える～ミュージカル「ハッピーバースデー」公演は、メンバーで半年間の歳月をかけ作り上げた公開例会でした。メンバー全員一丸となって、学校・PTAをはじめ、多くの地域の方にPRでき、800人を超える沢山の方に参加頂くことができました。子供たちや保護者の方々が真剣に書いた感想を読ませて頂いたとき、その半年間の思いを受け止めてくれる内容に、涙を流すメンバーたちと一緒に感動し、成功を実感することができました。この事業の経験が今後の公開例会にきっと役立つと考えます。

委員長 野中 重司

まちづくり委員会



今年まちづくり委員会では、人口比から見ても非常に多くのゴルフ場がある地域条件を生かしゴルフを通じたまちづくりに取り組みました。ゴルフ体験、本格レッスンと3ヶ月間にわたり練習し、最後に本コースを体験するという事業に取り組みました。

飯塚青年会議所としましてもまれにない長い期間の事業に参加して頂いた子ども達、保護者の方々、講師の方々、LOMメンバーの方々には最後までお付き合い頂き心から感謝致します。

又同時に体験スクールから本事業までの子ども達の成長記録を残し、活動および事業に賛同して頂ける他団体や企業の協力を募り、「ジュニア選手権を飯塚の地で」を目標に今後活動して行きたいと思えます。

委員長 伊藤 芳邦

会員拡充特別室



会員拡充ONE・ONE運動を全体事業「今こそ増やそう我らの仲間」として行い、拡大に関する情報収集、勧誘活動を当室主導の下、実行いたしました。本年度、50名拡大の課題をいただき、大きな目標に向かって日々情報収集してまいりました。色ん

なところへ顔を出し、有力な情報があればどうすれば入会してもらえるのか、メンバーの誰につながるのかと考え、多くのメンバーのアドバイスにより、結果28名の新入会員と1名の再入会、正会員に至らなかった3名の準会員と50名増には達しませんでした。過去例にないほどの拡大をすることができました。本年度、入会してくれたメンバーの今後の活躍を願っております。また入会に至らなかった方の情報についても次年度へ引き継いでまいります。

室長 久保井 英樹

ひとつづくり委員会



1月～11月 第2エリア(飯塚JC・田川JC・直方JC・宗像JC) 合同公益活動

約1年間にわたり、「第2エリアの結束の利」を今こそ地域住民の為に活かし、第2エリア内のひとつづくり事業やまちづくり事業をサポートし合える環境をつくり、多くの知恵や経験を共有し合う

ことで、困難を乗り越えることができる第2エリアを目指すことを目的とした活動を行いました。

7月1日 創立56周年記念式典及び懇親会

創立56周年記念式典及び懇親会の企画運営を行いました。

11月21日～22日 ひとつづくり事業「ドミノで作ろう友だちの和」

第2エリアから小学校高学年の子ども達を募集、飯塚3大学の学生に企画運営行わせ、「自ら積極的に考え、行動できる」青少年へ成長することを願い、ドミノ倒しの事業を行いました。本事業は、第2エリア合同公益活動の対象とし、第2エリアのメンバーも事業に参画していただきました。「志を同じうするもの」同士が第2エリア(飯塚・田川・直方・宗像)の活動面積である、914.47kmにちなみ、91,447個の「ドミノ倒しの実施とその企画運営」を通じて同じ目的を達成し、感動を分かち合い更なる第2エリアの結束を強める事ができ、「第2エリアの結束の利」という力の可能性を肌で感じられる事業になったのでは無いかと思います。

本年度最後の第2エリア会議では、この活動を今後も見守って行くということで4LOMの理事長様にも合意していただき、きっかけ作りが出来たのではないかと思います。

委員長 國武 裕仁



過去56年の活動(一部抜粋)

- 1953年 九州大水害の援助
- 1964年 文芸春秋文化講演会
- 1971年 山笠復活
- 1977年 呼び戻そう伝承の遊び
- 1987年 二市八町PR
- 1993年 勝ち歩き大会開催
- 2001年 大学に行こう
- 2002年 飯塚灯明ウォッチング
ふるさと探検バスツアー
- 2003年 飯塚元気まつり
- 2005年 ローカルマニフェスト開催
ふるさとチャリティ
ミラクルクイズ2005
- 2006年 大島サマーキャンプ
- 2007年 みんなで作ろうお菓子の町
- 2008年 福岡ブロック会員大会
日本一のアートおにぎり
作ろう飯塚銘菓 いいづか菓子

DRIVE

～地域の夢と未来に向かって前進～



社団法人飯塚青年会議所
第57代理事長

福永 隆 一

『DRIVE』

～地域の夢と未来に向かって前進～

現在の日本では、今までに無い大不況に見舞われ、心の豊かさと経済的な豊かさの両方を失いかけています。この現状は、私達青年会議所にとっても当てはまる事実です。不況のため経済的に厳しくなり、休会者や退会者が増え、地域の発展を目指した活動は基より、青年会議所自体が無くなるのではないかとさえ感じます。今後も地域の発展を考え活動するためには、青年会議所内を再構築し、メンバー全員に力をつけさせることが大切なのです。メンバーが力をつけるためには、まずは、経済的な豊かさを取り戻すことが重要です。そのためには、この地域全体が活性化し、全国各地から注目を得て、人が集まること一番必要なことだと考えます。例えば、10人の中で商売するよりも100人の中で商売したほうが、よりビジネスチャンスが広がるように、この地域に人が集まることによって、活性化し様々な分野でのチャンスも広がるのです。そのためには、特性をもう一度より深く掘り下げて熟知し、幅広く地域の魅力を発信していくことが重要であると考えます。その中で、「祭り・農業・文化・産業」という4つテーマを掲げ、この地域が活性化する事業を行っていくことが必要不可欠です。

◆◇地域の夢と未来に向かって◆◇

地域に根づいた祭り、飯塚山笠は今年40周年を迎えます。今では飯塚山笠は、市民祭として地域の人たちに幅広く知られる祭りとなりました。しかし地域の誇りである飯塚山笠は、多くの方々にまだまだ知られていないのが現状です。そこで今回、40周年を迎えるにあたり、飯塚山笠を幅広く知ってもらうため、今一度、飯塚山笠の魅力を見つめ直し、全国に向けて発信していき、一人でも多くの方がこの祭りに集まるよう全力を尽くしていきます。

遠賀川上流域であるこの地域は、昔から農業が盛んで、その中でも稲作の一大中心地であります。更なる農業畜産発展のために、この地域の特性を深く掘り下げ、生産者育成などを含めた活力ある農業畜産に向けて力を注ぎます。又、過去の産物調査を行い、稲作だけではなくこの地域ならではの新しい特産品の開発などを行っていきます。

この地域は昔、長崎街道の宿場町として栄えました。長崎街道は、別名「シュガーロード」とも言われ、今でも旧街道沿いにはお菓子で栄えた文化があります。又、この地域には嘉穂劇場・伊藤伝右衛門邸といった文化施設など、他の地域に誇れるものが数多く点在しています。しかし、これらの地域文化も、まだまだ全国には知られていないのが現状です。そこで改めて、地域の歴史的背景を知り、今も残る文化遺産の良さを見つめ直し、地域の宝として再度全国へ発信していきます。明治から戦後にかけて、炭鉱時代の絶頂期を迎え日本の中心都市になった歴史がこの地域にはあります。今では、三大学をはじめとする学園都市の一面があり、その中でIT特区として認定を受け、様々な最先端の知識・人材が集まる地域となりました。この経験を活かしITだけではなく、この地域から生まれる新しい起業、更には未来の地域発展に向け

た企業誘致に繋がるような事業展開を行っていきます。
青年会議所運動を、多くの方々により良く理解してもらうために、まず外部に向けて幅広く発信していく必要があると思います。その中で、より多くの方々と交流し今この地域に何が必要なのかを考え、多くの情報を集約しながら、その情報を基にして「祭り・農業・文化・産業」のテーマの中から、この地域において真に必要とされる事業展開を行っていきます。また、この地域から必要とされる事業作りをする中で、地域住民さらには行政と一体となった地域に根付いたネットワークを構築し、地域のニーズから創出されるコミュニティビジネスに繋がるよう行っていきます。

◆◇情報は力なり◆◇

青年会議所には、様々な経験を得られるチャンスがあります。その一つに挙げられる国際交流は、姉妹提携を結んでいる台東国際青年商会との交流だけでなく、この地域に在住している様々な国の人々とも交流を深め、青年会議所活動の中から地域が発展するための情報交換が出来るように活動していきます。また、月一度メンバーが集う例会は、青年会議所活動の基本ベースとなっています。今一度、例会の大切さを見つめ直し、各事業においての情報交換・ブロック出向など様々な外部情報交換ができる場として活用し、その中からメンバー一人ひとりがスキルアップを図れるように運営していきます。

本年度も、引き続き青年会議所がより活力を持つために、会員拡大に力を入れ多くの仲間を増やし、事業を内部から支えていきます。さらには、厳正な会議所運営、公益社団法人格に向けての定款改定、ローカルマニフェスト実施なども行います。

地域を背負って立つ若き経済人として、私達青年会議所が苦しい時だからこそDRIVE(前進)し、愛する地域の柱となるためにメンバー一人ひとりが、力をつけるべく行動していきます。青年会議所が地域の特性を活かした様々な提案をする中で、本当に何が出来るのか、何を必要としているのかを考え行動していきます。そして、地域住民さらには、行政と一体となって活動すれば必ず地域も活性化し、さらには全国から注目を得て人が集まることで様々なチャンスが生まれてくると確信し活動していきます。

【基本方針】

- 一、新たなる故郷の魅力を活かす地域興し事業
- 一、故郷の魅力を発信し、地域に多くの方々を集客する事業
- 一、会員相互の情報を共有化し更なる活動を目指す
- 一、異文化との交流および情報共有化
- 一、会員拡大による組織の強化と活性化を図る
(広報 ONE・ONE 運動の実施)
- 一、ローカルマニフェストの実施
- 一、公益社団法人格取得に向けての取組み

LOM支援特別室

室長 國米 征吾



2010年度我々社団法人飯塚青年会議所は、「DRIVE」を合言葉に第57代福永理事長の下、2つの特別室と8つの委員会が、それぞれの役割を果たすため邁進して参ります。その中で我々の室が与えられた役割のひとつは、会員拡大による組織力の強化と活性化です。会員拡大は、青年会議所が活力を維持していくこと。すなわち今後の地域の活性化には不可欠であると考えます。

会員拡大では「広報ONE・ONE運動」を軸に、メンバーから集められた大切な情報を無駄にすることなく、活発な拡大活動を行います。会員拡大は単なる青年会議所への勧誘ではなく、青年会議所の良さを幅広く広報することが拡大への近道だと考えます。それによって入会したメンバーには、責任を持って充実した3ヶ月間を体験して頂きます。その為の飯塚青年会議所全体の受け入れ態勢づくりと、基本に立ち返った指導に力を注ぎます。

我が室はその名称からも分かるように、LOMを支援することを目的に設置された特別室です。飯塚青年会議所に所属する全ての会員を支援する為、それぞれの室や委員会の活動、事業に参加することはもちろん、サポート的な役割も惜しみません。更に委員会同士の連携といった支援も実施したいと考えています。委員会同士の連携が図れば、よりいっそうの事業効果に繋がると確信致します。

青年会議所には、LOMに留まらず出向という形や他LOMへの協力、支援といった形で活動をしているメンバーも多く存在します。出向することで、他LOMの出向者や他団体に飯塚青年会議所を知ってもらい、交流を深めることは個人のスキルアップに繋がることは元より、それを持ち帰って頂くことで、飯塚青年会議所にもメリットが生まれることは間違いありません。その中でも特に理事長は、LOMの内外を問わず多くの会議や事業に我々の代表として出席し、発信の機会も多く存在します。発信することはすなわち飯塚青年会議所の広報に繋がります、やがてそれはふるさとの発展に繋がると確信致します。我々の室はその様な出向者や代表者に関しましても、その後押しをすべく内部より協力し支援致します。

また会員相互の交流も個々のスキルアップや発展に繋がる、大切な支援のひとつと考えます。委員会や世代、業種の枠を超えての交流は青年会議所の醍醐味であり、魅力のひとつです。個々の発展は青年会議所の発展に繋がります、青年会議所全体の発展は地域の発展にも繋がると確信致します。そういった場を模索し、お互いの絆を深める為の取り組みも実施致します。

我々LOM支援特別室は、全てのJAYCEEとLOMの支援を目的とした活動を1年を通して行い、2010年度飯塚青年会議所の目的の遂行が円滑に行える様、メンバーの皆様に支援と協力を致します。

地域公益推進特別室

室長 江藤 晃輔



今日日本を、そして私たちを取り巻いているさまざまな状況は、混迷の度を深めており、未だに将来に向けての方向性は明確ではありません。戦後最悪といわれる経済状況や急速に進行しつつある高齢化問題を始め、教育、環境、国際関係などにおいても多くの懸案を抱えています。また、私たちの活動エリアである飯塚市・嘉麻市・桂川町においても問題は山積しており、地方分権の潮流を受け、自立した自治体運営を目指しながら、地域住民の生活に根ざした政策を実現することが重要な課題であると考えます。

このような状況の中、本年度は2市1町の全ての首長が任期の満了を迎えます。わが国の民主政治の進化と発展にとって首長選挙のあり方は極めて重要な意味を持つと考えます。なぜなら首長選挙は候補者が提示する地域の理念と政策目標をめぐり、誰もが地域社会のあり方を考える最高の機会だからであります。よって本年は、首長選挙におけるローカルマニフェスト型公開討論会などを実施し、地域の方々とともに、今後のまちづくりのビジョンを考える場を作っていきます。

また、2008年12月1日より公益法人制度改革3法が施行されました。残り4年間の移行期間があるとはいえ、様々な制度改革が必要であり、早急に取り組みを強化していかないと、会の存続さえも危ぶまれる事態になります。本年度は、一般社団法人・公益社団法人・任意団体のいずれかを選択するかなどの重要な問題に関しても、積極的な意見交換の場を創ることや、勉強会の実施を行い、定款変更を含め様々な組織制度改革案を提起していきながら、総会においては運営・管理・総務諸業務を厳正かつ確実に実施します。

このような活動・運動をとおして、社団法人飯塚青年会議所が地域の夢と未来に向かって前進していき、我々の地域にとって「明るい豊かな社会の実現」に繋がると確信いたします。

この様な活動・運動をとおして、社団法人飯塚青年会議所が地域の夢と未来に向かって前進していき、我々の地域にとって「明るい豊かな社会の実現」に繋がると確信いたします。

地域国際交流委員会

委員長 福澤 文聡



現在わが国、日本は先人たちの努力により世界から経済・技術大国として認知され、アジアを中心に約12万人もの留学生が訪れています。日本人は国土を海に囲まれた地理的条件から、異文化との交流に消極的な民族であるといわれます。コミュニケーションの手段である語学も3カ国以上の言語を話せる人は少なく、そのことで私たちが、交流する機会を減少させています。日本を訪れる留学生の方は知識は自国に持ち帰っても日本の文化に接する機会をなくして

います。しかし留学生の中には日本語でコミュニケーションを取れる方もおり、向上心をもって勉強されています。私たちも、一歩踏み出し積極的に異文化交流をしていくべきなのではないでしょうか。

私たちの地域にも36カ国、約1400人の方々が生活されています。そこで、我々、地域国際交流委員会は、言葉や習慣、物の見方や考え方の違う、このまちに住む様々な国の方々にふるさとの素晴らしい特産品や文化をアピールし物心両面において国際的な交流が出来ることを目標とし、新たな発見や刺激を受け、お互いの国や地域が発展する為の情報交換や国際的なビジネスパートナーになりえる関係が結べるような幅広い活動をしていきます。

そして将来、この地域が世界的にも注目され、人が集まり、活性化し様々な分野で、地域の夢と未来に向かって「DRIVE」することを確信します。

また、1975年より姉妹提携を結んでいる台東国際青年商会とも同様に相互の認識を深める為、私たちのふるさとの文化を発信することで真の交流となる可能性を広げていきます。

地域ディベロップメント委員会

委員長 藤木 英憲



現代の日本社会に於いて都市部への人口集中、地方の過疎化は深刻な問題です。私たちのふるさとも、もちろん例外ではありません。江戸時代には長崎街道の宿場町として栄え、その後「炭都」と呼ばれるほど石炭の恩恵を受けながら繁栄しつつ、日本の近代化を支えた筑豊地区も、エネルギー革命と共に衰退し、昔あったまちの活力は陰を潜めているように思えます。

しかし、私達世代が知らない、あるいは知っているも忘れかけているこの地域の素晴らしい部分がたくさんあります。それらを掘り起こし私達自らが知ることによって、ふるさとに対する愛着が生まれ、さらなる愛郷心が生まれると考えます。愛郷心が強まることによって、地域の抱える問題も自身の問題として考えるようになり、解決していく為の意識開発(ディベロップ)や行動を興す(ディベロップ)ことで、この地区に人を集め、そして活力が生まれると考えます。

そこで我が地域ディベロップメント委員会では、まずは私たちがこの地域の個性(特色)を理解し、この地域の住民、さらにはこの地域以外の人達にもこの地域の良さを知っていただく事業を企画し、運営致します。

それによりこの地域の魅力を再認識していただくと共に、明るい話題をこの地域に提供することによって、将来に対して明るい展望を持てるきっかけ作りができ、一人ひとりがこのふるさとの誇りや豊かさを発信することで、再びこの地域に活力を取り戻せることを確信し、全力で邁進(DRIVE)致します。

また、我が委員会が担当させていただき創立記念では、先輩方が歩んでこられた青年会議所の足跡を振り返ることによって、築き上げてきたまちの誇りを再認識していただき、今後の青年会議所運動とふるさとの更なる飛躍を目標とした式典になるよう、厳粛な運営を致します。



地域まつり活性化委員会

委員長 桑野 慎吾



私たちの地域には様々な「まつり」があります。この「まつり」には地域の活性化・人材育成や経済波及効果など地域には欠かせない要素がたくさんあります。そこで本年度、地域まつり活性化委員会では、今年復活40周年を迎える私達の活動エリア飯塚の代表的まつり「市民祭飯塚祇園山笠」の更なる発展の為に山笠振興会に出向し地域の夢と未来の為に全力を尽くし企画・運営に携わります。

また当委員会では前年度山笠委員会の思いを継承し山笠振興会への提案及び提言を行うことで、受継いでゆくべき伝統は守り、今後の為に今変えるべき事は変えていけるように山笠振興会内で活発な意見交換を行い青年会議所らしく諸先輩方が築き上げられた飯塚山笠・山笠振興会がよりよい組織になるように努力いたします。この「まつり」に、一人でも多くの人が集まるように山笠振興会と連携し、情報を幅広く発信します。そして、青年会議所メンバー一人ひとりが飯塚山笠に誇りを持てるように委員会メンバー一丸となり山笠振興会に提案したいと考えます。

更に、新年第一回目の事業、新春祝賀会を企画・立案し運営いたします。この新春祝賀会において地域の方々や諸先輩方、多くの来訪J.Cの方々へ2010年度社団法人飯塚青年会議所の活動や方向性を示し、理解して頂ける場となるように全力で企画・運営に努めます。

地域プロデュース委員会

委員長 木村 幸道



飯塚青年会議所は56年間、地域を良くするために率先して、ひとづくり・まちづくりを基本に様々な活動を続けています。現在この地域は未来に展望を持つことが難しい現状に置かれています。しかし、将来にわたりこの地域で過ごして行く自分たち自身が先頭に立ち、この地域をより良い住まいに変える行動を起こすことが、私たちに与えられた責任であると考えます。

当委員会では、継続して行っている灯明事業を地域の人たちと協同で行い、その中から様々な可能性を見つけ出していきます。灯明事業で感動を与え人と人の心を繋ぎ、私達と同じ目標を目指して活動できる仲間との繋がりを作っていきます。そして、この地域だから生まれるコミュニティビジネスへの発展へ導きだしていきます。

広報においては、我々の一年間の姿をひとりでも多くの人々へ発信するために、ホームページ制作についても常に効果を検証していきます。またVOICEにおきましても、活動内容はもちろんのこと青年会議所がまちに必要な団体であることを地域に広めます。

我々の先輩たちが取り組んできた56年の歴史は、メンバーにとって英知と勇気を与えてくれました。57年目の今年、この想いを地域の方々へ元気と勇気を幅広く発信し、地域のポータルサイトになることを使命と考え一歩一歩DRIVEしていきます。

例会委員会

委員長 藤原 昌直



私たちは「誰のため」「何のため」に青年会議所という組織に所属して活動を行っているのでしょうか。この時代に建前ではなく本音での明確な答えを持っている人は素晴らしい人間であるでしょう。しかし、私自身を含め多くのメンバーはその問いに対する答えを出せずに、ましてはそんなことを考えることもなく活動しているのではないかと感じています。

そこで、本年度の例会を担当いたします当委員会では、一年間の例会運営を通して毎月様々なテーマを元に学び気づきの場を作り、メンバーの皆さんはもとより、例会を企画していく委員会メンバーも共に成長することで自信を持って先の問いに対するそれぞれの明確な答えを見出せるような例会を企画して参ります。

また、例会においての最大の担いはメンバーが一堂に会する場の提供と考えます。人が集まることによる情報の流通、共有化は各委員会の活動はもとより仕事上においても必ずや有益なものと考え多くのメンバーが参加したくなる様な運営に尽力いたします。

最後に、メンバー一人ひとりが「誰のため」「何のため」に青年会議所運動を行うのかということの確かな答えと目標を持って行動することで、自ずと自分自身のレベルが向上し、そしてそれは必ず社団法人飯塚青年会議所、ひいてはこの地域全体のレベルの向上に繋がるものと確信いたします。

地域農業畜産開発委員会

委員長 戸田 徹



「輝け!!このまちの農畜産業」
私たちが日々暮らしているのは衣・食・住がすべて揃っているからではないでしょうか。しかしながら、今、食のことを考えると様々な問題があるのも事実です。その中でも農畜産業では食料自給率の低下、農業畜産生産者の高齢化や後継者不足による衰退など様々な問題を抱えています。

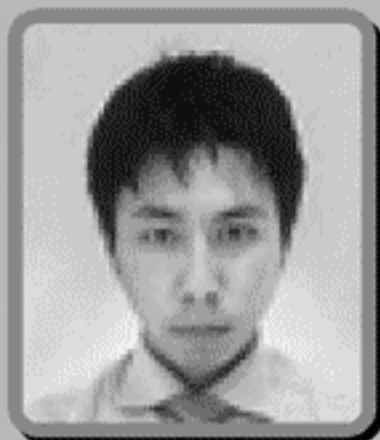
しかし、その反面、今一番注目されていて、人々が関心を寄せているビジネスでもあります。安全性などを考えた人たちが転職し農業に従事している例もあり、外食産業でもいち早く着目し自社で生産をしている所もあります。このような様々なケースを参考にしながら、この地域特有の農畜産物を発掘、発信することで農畜産業に関わる様々な問題を解決に導く糸口を見つけ出すことが出来るのではないのでしょうか。

そこで我が委員会では、この地域の農畜産業を活性化させるべく、農商工連携を推進し、生産者と行政・企業などの間に立ち、この地域から地域内外へアピールできるような農畜産業ビジネスをコーディネートする仕組み創りを行います。そうすることにより、このまちに活力を与え、私たちが成功例を創り出すことで第2第3の成功例を生み出す道しるべとなるのではないのでしょうか。それが私たち次世代を担う青年としての責任と使命だと考えて行動して参ります。

忘年会に関しては、今年度で卒業される9名の先輩方の在籍中の熱い活動を称え、メンバーの1年間の活動を労い、58年目へ向けてDRIVEできるよう企画運営致します。

地域開発プロジェクト委員会

委員長 清水 幸浩



今、私達は未曾有の不況と呼ばれる時代に直面しています。私達の暮らすこの地域も例外ではなく耳に飛び込んで来るニュースや話題もネガティブで暗いニュースばかりに感じられます。しかしながら誰もが不況にあえいでいる訳ではなく、この閉塞感漂う状況を少しでも打破しようと必死に模索しているのではないのでしょうか。このような時代だからこそ、マイナスのパワーをもプラスのパワーに変えて私達の住むこの

地域を少しでも明るくしなければならぬのです。

私達青年経済人として様々な人との出会う交流の場は、自らを切磋琢磨させる最適な場と考えています。交流の場に自ら積極的に参加することにより、たとえ小さな出会いや気づきでさえも、自分の中では大きな化学反応に変えて、今後の青年会議所運動だけでなく自分の仕事の間でも活かす力に変えることが出来ると思えます。そして人と人が出会うことで小さな輪が生まれ、こうした小さな輪が幾重にも重なり大きな輪になった時に、この私達が住む地域が現在より力強く前進して行けると確信致します。

水素と酸素を化学反応させることで水という全く違う物が出来上がります。それと同じように、私たちの住むこの地域の活動で培ってきた人脈を最大限に駆使して、人・もの・企業を結び、その新しい化学反応がおきたものを、地域に必要なとされる姿に開発しながら広くアピールし全国へ発信していくことを目標に、一年間前進(DRIVE)していきます。

地域きぎょう開発委員会

委員長 榎木 雅人



私たち社団法人飯塚青年会議所は、今日に至るまで活気あるまちづくり・元気あるひとづくりを目指し様々な活動を行ってまいりました。その輝かしい功績は、諸先輩方の心豊かな発想と、力ある行動により育まれてきた歴史と伝統であることは言うまでもありません。

現在、大不況という激動の時代の中、私達を取り巻く経済環境は劇的に変化し、企業の経営環境も順風満帆という訳にもいかず、精神的な余裕さえもなくなってきているように思えます。こうした環境の中、明るい豊かな社会を実現していく為にも、私たち自身が人一倍元気を出して、それを温かく見守ってくださるこの地域の皆様と一緒に、活気あるまちづくり・元気あるひとづくりを推進していく必要があると思えます。

そこで、私たち地域きぎょう開発委員会では「起業と企業」をテーマとし、この地域から生まれる新しい起業の創造に取り組みます。炭鉱時代には、日本の中心都市とまでなった歴史をもつ、この地域から生まれる新しい起業とは何なのか。今では、学園都市という一面があり、IT特区としての認定を受けました。様々な最先端の知識・人材が集まるこの地域から生まれる新しい起業とは何なのかを創造し・活動することで、夢ある新しい起業の可能性を見出します。さらには10年後・20年後のこの地域を企業が注目するような中心都市となるように、未来の地域発展に向けた企業の誘致活動を行います。その結果、雇用が増え、人がまちに溢れることにより、活気あるまちづくり・元気ある人づくりが推進出来ると確信し、DRIVE(前進)していきます。

JCI 2010年度 会員紹介

理事長
福永 隆一
(有)花のフクナガ

直前理事長
野上 英敏
(株)のがみ

副理事長
大里 至
大里酒造(株)

副理事長
室井 秀行
(有)室井自動車工業

副理事長
下川 哲也
(有)ぱっぶDining

副理事長
玉村 浩一
(有)コムレイド

専務理事
多田 勉
(株)多田組

常任理事
佐々木 英
佐々木英司法書士事務所

事務局長
山室 透
親和塗料

事務局次長
寺濱 剛史
(株)エス・シー・エム

監事
吉岡 慎太郎
(有)吉岡スタジオ

監事
田中 堅治
(株)福岡シービー

監事
谷口 正知
(株)チクホーシーリング

LOM支援特別室
室長
國米 征吾
(有)インテリアコクマイ

LOM支援特別室
副室長
久保 頼貴
久保自動車(有)

LOM支援特別室
久保井 英樹
(株)クボイ

地域公益推進特別室
室長
江藤 晃輔
(株)エトウ時計店

地域公益推進特別室
副室長
岡部 稔
有限会社 初音

地域公益推進特別室
赤坂 昌紀
(株)緑親園

地域公益推進特別室
石橋 恵介
今心(株)

地域公益推進特別室
大塚 正博
三信ビル管理(資)

地域公益推進特別室
畑中 規一
(有)荒木食品産業

地域公益推進特別室
福澤 慶之
上嘉穂貨物自動車運送(株)

地域国際交流委員会
委員長
福澤 文聰
銀翼タクシー(株)

地域国際交流委員会
副委員長
今泉 渉
(有)双葉商会

地域国際交流委員会
有馬 武文
(有)有馬クレーン

地域国際交流委員会
小玉 哲嗣
飯塚信用金庫(宮田支店)

地域国際交流委員会
坂口 天志
(株)飯塚電設

地域国際交流委員会
のがみ組
野上 智司

地域国際交流委員会
野中 重司
光代自動車整備工場

地域国際交流委員会
三木 祐太
(株)テュー・エステート

地域国際交流委員会
山本 敬介
やまもと寿司

地域ティベロップメント委員会
委員長
藤木 英憲
フジキ印刷(株)

地域ティベロップメント委員会
副委員長
神田 顕
(株)南風堂

地域ティベロップメント委員会
岩崎 奈美
味楽門BON

地域ティベロップメント委員会
梶原 雅彰
ミヤビ総合防水

地域アイベロップメント委員会
小林 隆一
(資)小林硝子店

地域アイベロップメント委員会
下野 雅芳
(株)キューブス

地域アイベロップメント委員会
田代 陽子
(株)福岡カホスイングリスクール

地域アイベロップメント委員会
原田 竜介
(株)サンレー飯塚松柏園ホテル

地域アイベロップメント委員会
深田 陵市
(有)南星観光

地域まつり活性化委員会
委員長
桑野 慎吾
(有)桑野電気工事

地域まつり活性化委員会
副委員長
今吉 義之
(株)アイジャパン

地域まつり活性化委員会
久家 渉
(株)三協

地域まつり活性化委員会
小林 雄二
(株)ぱっちゃんじっちゃん

地域まつり活性化委員会
高崎 英徳
(有)高崎クレーン

地域まつり活性化委員会
椿 重之
(株)中本不動産

地域まつり活性化委員会
松本 勝也
(有)松本食品

地域まつり活性化委員会
渡部 雅文
居酒屋 和"KOKORO"

例会委員会
委員長
藤原 昌直
(有)嘉穂園芸

例会委員会
副委員長
片平 秀一
(株)三豊

例会委員会
石原 由香
(有)Q&A

例会委員会
今井 光
ハート歯科クリニックいまい

例会委員会
川波 俊二
(株)トラベルウイズ

例会委員会
堀池 豊
(株)麻生情報システム

例会委員会
森 浩昭
(株)玉置

地域開発プロジェクト委員会
委員長
清水 幸浩
(株)瑞建工務店

地域開発プロジェクト委員会
副委員長
淵上 拓也
バームハウス

地域開発プロジェクト委員会
岩本 達也
(株)イワキン工業

地域開発プロジェクト委員会
嶋田 透
麻生芳雄商事(株)

地域開発プロジェクト委員会
新川 修
新川工業(株)

地域開発プロジェクト委員会
塚本 大
(株)中央産業

地域開発プロジェクト委員会
中村 和也
(株)中村建設

地域開発プロジェクト委員会
林 孝則
ほわいと歯科

地域プロデュース委員会
委員長
木村 幸道
潤野保育園

地域プロデュース委員会
副委員長
重 清康
(有)昭和管工

地域プロデュース委員会
江藤 裕仁
(株)トーン

地域プロデュース委員会
岡村 智之
近畿大学

地域プロデュース委員会
木下 太
(株)東京食品

地域プロデュース委員会
重松 将貴
飯塚ダイハツ販売(資)

地域プロデュース委員会
堤 考史
(株)セレモニー筑豊葬祭

地域プロデュース委員会
中川 民志
神崎建設(株)

地域農業畜産開発委員会
委員長
戸田 徹
カーコンビニ倶楽部 ソロ川津店

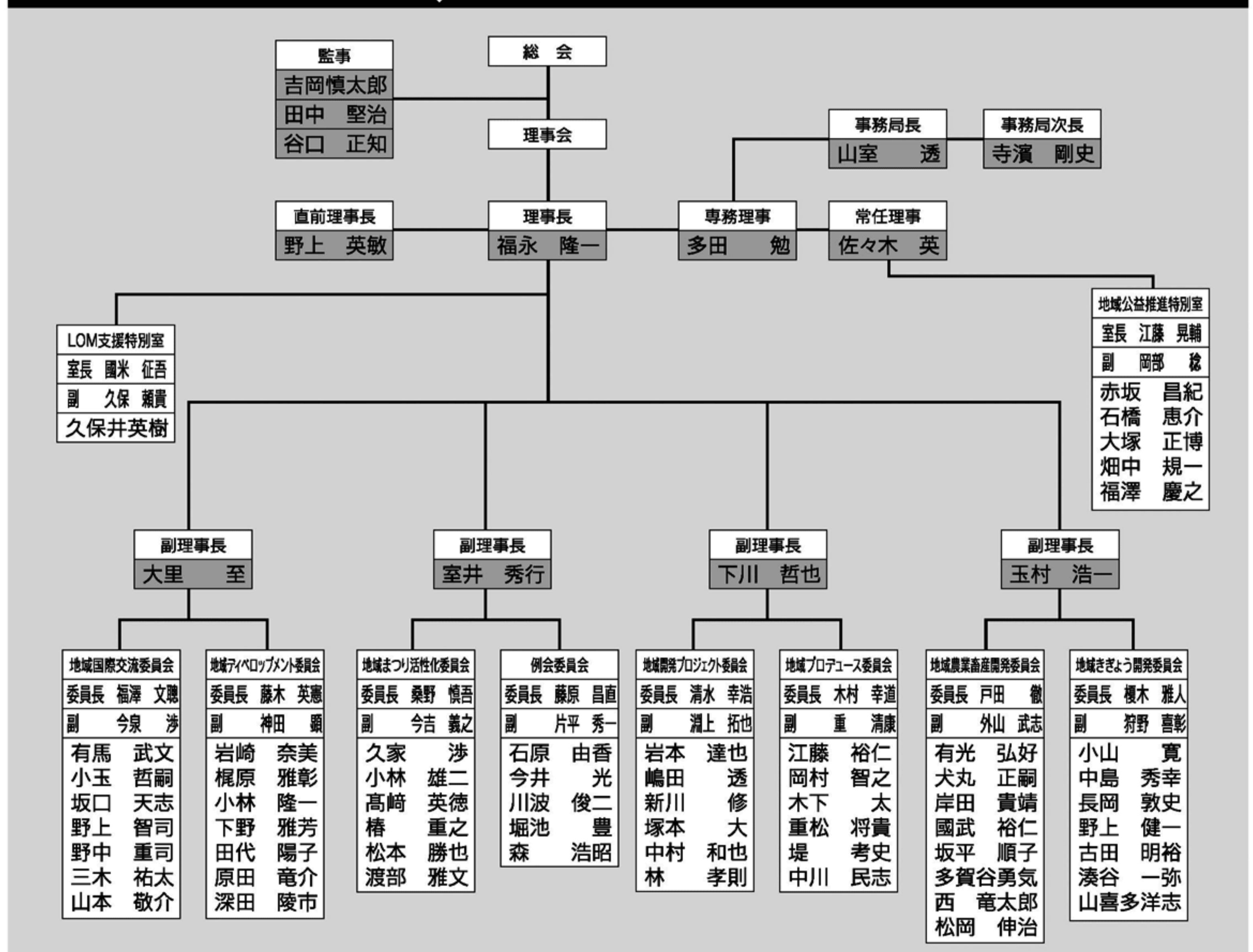
地域農業畜産開発委員会
副委員長
外山 武志
(株)KMG

地域農業畜産開発委員会
有光 弘好
皇祖神社

地域農業畜産開発委員会
犬丸 正嗣
犬丸損害保険事務所

 地域農業畜産開発委員会 岸田貴靖 三協技建(株)	 地域農業畜産開発委員会 國武裕仁 (有)システムハウジングタイセイ	 地域農業畜産開発委員会 坂平順子 新進工業(有)	 地域農業畜産開発委員会 多賀谷勇気 (株)イオス
 地域農業畜産開発委員会 西竜太郎 (株)西組	 地域農業畜産開発委員会 松岡伸治 (株)アンシン	 地域きぎょう開発委員会 委員長 榎木雅人 (株)サンテック	 地域きぎょう開発委員会 副委員長 狩野喜彰 (有)かの住建
 地域きぎょう開発委員会 小山寛 (株)小山産業	 地域きぎょう開発委員会 中島秀幸 飯塚信用金庫(穂波支店)	 地域きぎょう開発委員会 長岡敦史 (株)ジェイ・イー	 地域きぎょう開発委員会 野上健一 ティーブ
 地域きぎょう開発委員会 古田明裕 (有)筑豊美装	 地域きぎょう開発委員会 湊谷一弥 (有)酒のみなとや	 地域きぎょう開発委員会 山喜多洋志 (有)イツカベンディング	 休会 野上早規 のがみ商会

JCI 2010年度 組織図



2009年度 新入会員からの感想



木下 太

私が青年会議所に入会して得たもの、それは“仲間が出来た事”です。そしてその仲間達と力を合わせて、一つの事業を開催し、多くの感動を地域の方々に与える事が出来た経験は、自分の人生に於いての、大切な財産となりました。多くの諸先輩の皆様、何も分からない自分達を優しく指導していただいて、本当にありがとうございました。

それから、たくさんの人達と感動を共有できた事に、感謝、感謝です。ありがとうございました!!!



田代 陽子

青年会議所に入らん?と言われ、正直最初は迷いましたが、違った世界を見るのもいい勉強になるかもしれないと思い入会しました。

入会当初はとまどうことが多かったんですが、メンバーのみなさんは情が厚く気さくな方ばかりで、すぐに慣れることができました。

地域を盛り上げていこうと様々な事業を企画し、何度も話し合い、成功に導いていくという過程に携わり、実際に山笠や灯明やドミノ事業などに参加させて頂き、本当に多くの感動を味わうことができました。

まだまだ新人ですが、これからもJC活動を通して、地域活性化の為にがんばっていきたくと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



外山 武志

私が飯塚青年会議所に入会させてもらったのは、2009年1月の新年会からでした。

最初は緊張していましたが、諸先輩方から気軽に声をかけて頂きそのうち緊張もとけていきました。分からないこともたくさんあり、みなさんに迷惑をかけてしまうこともありましたが、その度にフォローをして下さる先輩方には本当に感謝しています。

青年会議所はいろんな業種のいろんな人たちと出会える絶好の場所だと思います。その中で自分の考え方や視野が非常にひろくなり、社会人としても少しずつですが成長できたと思います。まだまだ未熟者ですが、ここで経験できる様々なことに挑戦していき、さらに成長していきたくと思います。



神田 顕

メンバーは業種も年齢も考え方も違う人たちですが、志の高さという点では共通したものがあります。

こちらが心を開いて志の高さを見せれば、全員が驚くほど親身に熱く答えてくれます。しかも100人いれば100通りの違った考え方が返ってきます。

仕事の事に関して、家庭の事に関して、入会と同時に100の頭脳を手に入れたような感じがしました。このような面白い団体はなかなか無いと思います。

この団体の中でメンバーの皆さんと共に事業を興し、語らう。今ではその先に私の経営者として、また一個人としての成長があると確信しています。

社団法人飯塚青年会議所

会員募集

青年会議所 (JC) は“明るく豊かな社会”の実現を理想とし、時代の担い手たる責任感を持った20歳から40歳までの、指導者たらんとする青年の団体です。私たちは現在、国内709余りの都市に4万人余りの会員を、全世界128カ国地域に17万4千人余りの会員を擁しています。青年会議所の事業目的は“社会と人間の開発”です。私たちは市民社会の一員として、市民の共感を求めて社会開発計画に基づいた活動を行い、「自由」を基調とした民主的な指導能力の開発を推し進めています。

青年会議所は20歳から40歳までの情熱ある青年の団体です。

(社)飯塚青年会議所は、あなたの力を求めています!

私は、青年会議所について聞かれた時「青年会議所はまちづくりとひとづくりを行う団体です」と答えています。青年会議所はこのように考えています。家庭・学校・企業等、これらは全て「ひと」によって成長して行きます。そして、私達の生活している「まち」も「ひと」によって構成されています。青年会議所は40才までの団体であり、そのわずかな時間の中で「まちづくり」を行うことは大変難しいことです。しかし、いろんな事を経験し、体験することで「私」という「ひとづくり」を行い、「豊かな考え」のできる「ひと」に成長すれば、それが「豊かなまちづくり」につながるのです。青年会議所の活動は「もの」をつくる町づくりではなく、「ひと」をつくる町づくりです。青年会議所とは40才までにやり遂げる団体ではなく、入口なのです。

●対象者● 飯塚市、嘉麻市、桂川町に住所または勤務先を有する20才から37才までの健全な方であれば男女を問いません。詳しくは下記飯塚青年会議所事務局までお問い合わせ下さい。

広報渉外委員会

■ 室長/犬丸 正嗣 ■ 委員長/西 竜太郎 ■ 副委員長/藤木英憲
 ■ 委員/大里 至・岸田 貴靖・佐々木 英・今泉 渉・江藤 裕仁・狩野 喜彰・木下 太・重松 将貴
 外山 武志・梶原 雅彰・三木 祐太・神田 顕・重 清康・新川 修・今吉 義之・寺濱 剛史
 淵上 拓也・渡部 雅文・有光 弘好・野上 健一・岩崎 奈美・坂口 天志・松岡 伸治・田代 陽子
 塚本 大・山喜多洋志・石橋 恵介・川波 俊二・小林 隆一・多賀谷勇気・野上 智司